

令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋中学校

学校の教育目標

- | | |
|-------------|------------------|
| ○考える人になろう | ○心ゆたかな人になろう |
| ○たくましい人になろう | ○みんなのためにつくす人になろう |

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- 1 各教科の年間指導計画と評価計画の充実を図るとともに、適正な教育課程を実施する。
- 2 国語・数学・英語科で少人数、習熟度別指導等、個に応じた指導を充実させる。
- 3 授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進め、基礎基本の確実な定着を図る。
- 4 校内研究、授業観察、個々の教員の教材研究で、毎時間の授業の質を向上させる。
- 5 各種検定の取組やサブノートを活用を通し、自学自習の意識を向上させ、学習習慣の確立を図る。

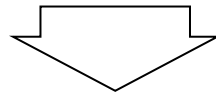
令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因。

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生までの漢字や語彙力に大きな差がある。 ・多くの生徒が200～800字課題作文などテーマに沿って書き、考えて発表できる。そのため各学力調査の数値目標を達成している。 ・作者の心情や、意見と事実を分けて読み解くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい文章を書くための漢字や熟語をその場では理解しても、定着していない。 ・読書は好きだが長文を読むことに慣れておらず、主題をつかむのに時間がかかる。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力が不足している。 ・各単元において、生徒自身が理解しているように思っているが、正しい理解をすることができておらず、初めて見る課題に対して問題解決する手段を考えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幾何学単元に入った際に、計算演習する機会が不足している。 ・授業内での、説明し伝え合う数学的活動が不足している。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野における軽度・緯度の理解や資料の読み取りが不十分である。また、世界と日本の比較について特色を多面的・多角的に捉えることが苦手である。 ・歴史的分野における安土桃山時代の政策や文化の特色について理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る視点が単一で、さらにまとめたり文章化する力が定着していない。 ・政策や文化と社会的背景を結び付ける力が定着していない。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学に関する知識理解が不足している。 ・証明実験など、既習の知識を応用することがあまり得意でない。 ・自然現象を説明するときに、論理立てた説明をすることを苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考、表現に力を入れるようになった分、知識理解は以前より下がっている。 ・自然現象が起こる条件を自分で設定する実験などが不足していた。 ・実験結果を、人に理解できるように伝える機会が少なかった。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や熟語の語彙力、文法の理解に大きな差がある。 ・まとまりのあるリスニング問題を聞き取ることに課題がある。 ・内容を自分で考えて英作文を書くことを苦手としている。 ・身近でない話題の説明文の読み取りを苦手としていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や熟語、文法が定着していない。 ・既出の文法が定着していない。 ・様々なトピックを扱った長文を時間内に読むことに慣れていない。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・運動習慣等の実態調査の「運動が好き」の項目で、好き傾向の数値が東京都の平均より低い。 ・体力テストで、柔軟性や敏捷性に点数の上昇がみられる。握力、持久力は全体的に低い傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の授業以外における、日常的な運動習慣が少ない。 ・持久走など長く走る習慣が少ない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<p>目標「基礎基本を確実に定着させる。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が80%以上となる。」</p> <p>平成30年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は個に応じた指導を徹底し、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。」 <p>よくあてはまる10.0% あてはまる52.0% 計62.0% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <p>平成30年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の進み方はちょうどよいと思いますか。」 <p>ちょうどよい33.4% まあまあよい49.8% 計83.2% 85%を目指す。</p> <p>放課後や長期休業中に区中学校講師や学習指導サポーターを活用し、学習力サポートテストの復習プリントや東京ベーシックドリルを活用した補習教室を行う。</p>
②授業改善	<p>目標「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進める。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が90%以上となる。」</p> <p>平成30年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。」 <p>よくあてはまる23.3% あてはまる62.5% 計85.8% 前年度を上回るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 <p>よくあてはまる12.4% あてはまる57.4% 計69.8% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <p>平成30年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業規律を守り、落ち着いて授業を受けることができますか。」 <p>よくできた47.3% まあまあできた46.1% 計93.4% 90%以上を継続する。</p>

<p>③教員の指導力</p>	<p>目標「「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を行う。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>平成30年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を提供しているか。」 <p>よくあてはまる9.9% あてはまる53.9% 計63.8% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。」 <p>よくあてはまる17.0% あてはまる57.4% 計74.4% 前年度を上回るようにする。</p> <p>平成30年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容を理解し、達成感がありますか。」 <p>よくできた18.0% まあまああった58.4% 計76.4% 前年度を上回るようにする。</p>
<p>④家庭との連携</p>	<p>目標「自学・自習の学習習慣が身に付くように指導する。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>平成30年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サプリノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。」 <p>よくあてはまる17.1% あてはまる50.2% 計67.3% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「「生活と学習のサプリノート」を活用し、学校と家庭の双方向の情報交換を通して、学習・生活状況の把握を行い、指導に生かしているか。」 <p>よくあてはまる17.7% あてはまる43.8% 計61.5% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <p>平成30年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サプリノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣を身に付けることができているですか。」 <p>しっかり身に付いている16.4% 身に付いている37.2% 計53.6% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p>

⑤体力向上	<p>目標「運動意欲を高め、生徒の生活全般で運動習慣を身につけられる指導をする。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>平成30年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は生徒の健康・体力の増進に努めている。」 よくあてはまる19.6% あてはまる55.7% 計75.3% 前年度を上回るようにする。 ・「昼休みに校庭や体育館、屋上で、身体を動かす機会をあたえているか。」 よくあてはまる17.9% あてはまる42.7% 計60.6% 前年度を上回るようにする。(目標80%) <p>平成30年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昼休みに校庭や体育館、屋上で、身体を動かす機会をもつことができましたか。」 よくできた27.4% まあまあできた29.3% 計56.7% 前年度を上回るようにする。(目標80%) <p>体力テストにおいて、持久走、ハンドボール投げについて、東京都平均とほぼ等しくなるようにする。</p>
-------	--



【目標達成のための具体的な取組内容】

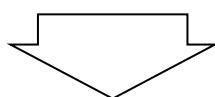
①学力基盤	
取組Ⅰ	<p>各教科で指導と評価の一体化を目指した指導計画・評価計画を作成する。 その中で</p> <ul style="list-style-type: none"> ①オリンピック・パラリンピック教育 ②表現力の育成 ③他教科等 <p>に関わりのある学習内容を明確にする。 夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、生徒個々の学力に応じた指導ができるように計画、準備を行い、新学期から実践する。</p>
取組Ⅱ	<p>生徒が授業で身に付けた表現力を活用する場面を授業及び行事や学年・学級の活動に意図的に設定し、言語活動の充実を図る。</p>
取組Ⅲ	<p>生徒全員が英語、漢字、数学検定へ挑戦する場を設定し、受検者全員が合格できるように、検定前に放課後などを利用した補習を行う。</p>

②授業改善	
取組Ⅰ	①交流が活発に行われる授業 ②「できた」「分かった」を実感させる授業 ③社会や生活に広がる授業 を目指す。
取組Ⅱ	これまでの校内研修で培ってきた、授業改善の取り組みを継続するとともに、新たに行う研修をふまえて授業改善を行う。 夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、各教科で授業の振り返りを行い、新学期からわかりやすく工夫された授業となるように改善する。
取組Ⅲ	管理職による授業観察を各学期に1回以上、定期的実施する。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。
取組Ⅱ	他教科や学年の教師間と常に指導内容や生徒に関する情報を交換する。
取組Ⅲ	生徒の反応や学習状況に応じながら計画に沿って授業を実践する力を高めていく。(発問や指示・板書の工夫、教材・教具の活用等) 夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、各教科で授業の振り返りを行い、新学期から「分かった」「できた」と実感できる授業となるように改善する。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	「生活と学習のサブリポート」を活用し、各生徒の家庭学習の状況を把握するとともに、保護者と連携を図り、家庭学習の習慣化を目指させ、自学・自習の能力を育成する。毎日の記入と提出を生徒に促し、三者面談でサブリポートの記録などをもとに家庭学習について話し、定着を促す。
取組Ⅱ	携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用について家庭でルールを決め、食事や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立させる。
取組Ⅲ	定期考査に向けた学習計画表、考査後に家庭向けに配布する学習の記録をもとに、三者面談などの機会を利用し、家庭と連携した自学・自習の指導を行う。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	2学期の昼休みの時間に、生徒が体を動かしたくなるような企画を立て、楽しみながら体を動かせるようにする。 ①ダブルダッチ体験 ②ボルダリング体験
取組Ⅱ	運動会で実施する団体種目を通し、自己有用感を高めながら体力向上に向けた取組を行う。
取組Ⅲ	体育の授業に外部講師を招聘し、専門的な指導を受けることで、具体的にできることを増やし、運動に対する自信をつけられる指導を行う。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート【学校は個に応じた指導を徹底し、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。】 肯定的評価が前年度を上回った。 62.0%→65.8% 個に応じた指導の方法に対し、評価された。今後も継続して指導の工夫・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート【授業の進み方はちょうどよいと思いますか。】 肯定的評価が前年度を下回った。 83.2%→77.6% 否定的評価の22.4%の生徒と、保護者アンケートで否定的評価と「分からない」の評価をつけた34.2%の方に対し、具体的理由の追跡調査を行う。追跡調査を実施して、課題を明確にし、改善に取り組む。 学力にあまり自信がない生徒に対する助言など、サポートをする機会を増やし、多くの生徒が授業で学習内容が理解できるようにする。

<p>②授業改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート【授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。】 肯定的評価が前年度を上回った。 85.8%→88.4% ・保護者アンケート【学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。】 肯定的評価が前年度を上回った。 69.8%→72.0% <p>否定的評価が、2年生は20.5%から11.2%に下がったこと。1年生では11.9%であることが結果に表れている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート【授業規律を守り、落ち着いて授業を受けることができますか。】 肯定的評価が前年度を下回った。 93.4%→92.8% <p>目標としている90%以上を維持しているものの、前年度を上回ることを目標に、引き続き授業規律を徹底していく。</p> <p>保護者アンケート【学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。】では、1年生で「わからない」の評価が17.4%ある。追跡調査を行い、授業がわかりにくいと思われる点を具体的に、分かる授業となるように改善を行う。</p>
<p>③教員の指導力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート【学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。】 肯定的評価が前年度を上回った。 74.4%→75.7% ・生徒アンケート【授業の内容を理解し、達成感がありますか。】 肯定的評価が前年度を上回った。 76.4%→77.8% <p>引き続き改善を行い、80%以上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート【「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を提供しているか。】 肯定的評価が前年度を下回った。 63.8%→60.9% <p>24.5%の否定的評価と14.7%の「わからない」の評価に対し、追跡調査を行う。「分かった」や「できた」の実感がもてない理由を明確にして、改善点を具体的に把握し、改善を行う。</p>
<p>④家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート【サブノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。】 肯定的評価が前年度を上回った。 67.3%→71.2% ・保護者アンケート【「生活と学習のサブノート」を活用し、学習・生活状況の把握を行い、指導に生かしているか。】 肯定的評価が前年度を上回った。 61.5%→74.5% ・生徒アンケート【サブノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣が身に付けることができますか。】 肯定的評価が前年度を上回った。 53.6%→59.3% <p>サブノートを活用した指導を、改善しながら継続して行う。</p>	<p>生徒アンケート【サブノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣が身に付けることができますか。】では、否定的評価が、40.7%あるので、追跡調査を行い、サブノートが活用されていない理由を把握し、改善につなげていく。</p> <p>また、学習面での活用を増やすように、様式の変更や指導の工夫を行い、生徒にサブノートを使用した効果を実感できるように、指導を行う。</p>

<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート【学校は生徒の健康・体力の増進に努めている。】 肯定的評価が前年度を上回った。 75.3%→82.7% ・保護者アンケート【行事、授業、昼休み等で体育的な活動を充実させ、生徒の運動意欲を高めることができたか。】 肯定的評価が前年度を上回った。 60.6%→69.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート【昼休みに校庭や屋上で、身体を動かす機会をもつことができましたか。】 肯定的評価が前年度を下回った。 56.7%→55.5% <p>否定的評価では、1年生が35.1%、2年生が37.7%から47.3%、3年生が50.5%から52.7%と、学年が上がるにつれて下がる傾向にある。運動チャレンジプログラムなどの昼休み体育館開放では、参加する生徒も多いので、生徒が運動するように促すことを増やしていく。</p> <p>保護者アンケート【行事、授業、昼休み等で体育的な活動を充実させ、生徒の運動意欲を高めることができたか。】では、否定的評価の18.5%、「わからない」の評価である12.5%の方に対し、追跡調査を行い、運動意欲が低いと感じる点を具体的に示して、改善を行う。</p>
--------------	---	--